

西本白川 （此は） 漢學者。明治十一年十一月二十日熊本縣生れ、昭和二年五月八日歿（一八七八一—一九二六）。本名省三。辛亥革命以前から清朝改革運動に参加。特に清末の學者沈子培に傾倒して宋學の基く王道主義を提唱、唯物史觀の橋樑を批判した。大正二年に上海週報を創刊。東亞同文書院教授。

著書 「支那思想と現代」（大正十年十一月二十二日上海・春申社）、
「現代支那史的考察」（大正十一年十一月十日上海・春申社）、
「大儒沈子培」（大正十一年八月十五日上海・春申社）、
「宋學の物心觀」（大正十二年四月二十日上海・支那思想研究會「支那思想研究會パンフレット」）、
「復古即日新」（大正十三年六月二十日上海・支那思想研究會「支那思想研究會パンフレット」）、
「康熙大帝」（大正十四年刊。のち昭和十六年十一月二十日大東出版社「東亞文化叢書」）
等。また「白川西本君傳」（上海雜誌社編、昭和九年七月一日上海・蘆澤民治刊）がある。

